

レスポス宣言

2009年5月6日

- A. 国際放射線防護委員会(ICRP)は電離放射線被曝に対する危険係数を公表してきたことに鑑み、
- B. ICRP の放射線危険係数が連邦政府と各国政府の、放射性廃棄物、核兵器、汚染された土地や物質の取り扱い、自然および技術的に増強された放射性物質 (NORM および TENORM)、原子力発電所とすべての核燃料サイクルの過程、補償と修復の機構、などに関し、労働者と一般人に対する放射線防護の法律や基準に広く用いられてきたことに鑑み、
- C. チェルノブイリ事故は、核分裂生成物の被曝によって起こった不健康の発生量がわかる最も重要でかけがえのない機会を与えており、現行の ICRP の危険率モデルを、とくに胎児、幼児の放射線被曝に適用することが不適切であることを実証してきたが故に、
- D. ICRP の危険率モデルは、事故後の被曝に対しても、内部被曝をもたらす放射性物質に対しても適用できないことに異議がないことに鑑み、
- E. ICRP の危険率モデルは、DNA の構造が発見され、ある種の放射性原子核は DNA に化学的親和力有することが発見されるより前に展開されたために、通例 ICRP によって用いられている概念は、このような核種による被曝影響に適用できないが故に、
- F. ICRP は、遺伝物質の不安定性、バイスタンダー効果あるいは 2 次効果のような非標的効果のような新しい発見を、放射線危険率に、とくに結果として起こる一連の疾病について理解するに際し、考慮していないが故に、
- G. 死亡原因に混在しているために、放射線被曝の非がん影響は、被曝によるがん発生のレベルにまで正確に決めることは不可能であるが故に、
- H. ICRP は純粋に忠告に関する報告の地位であることを考慮するが故に、
- I. 人類全体と声明環境を防護するため、放射能にかかわる現状の適正な規制のために、直ちに、緊急かつ継続的な必要性があるが故に、

われわれは、われわれの個々人の資格で末尾に署名した。

1. ICRP の危険率係数は事実から離れており、これら係数を用いることは放射線危険率を大幅に過小評価になると明言する、
2. ICRP の危険率モデルを放射線の健康影響の予測に用いることは、少なくとも 10 倍の過ちを導く一方、われわれは、誤りがさらに大きいことを示唆するある種の被曝に関する研究を認識していることを主張する、
3. 放射線被曝による非がん疾病の発症、とりわけ心臓血管、免疫、中枢神経および生殖器官に対する障害は重大であるが、なお定量化されていないことを主張する、
4. 責任当局者、放射線被曝を引き起こすことに責任を持つ当局者も、放射線防護の基準を決定し、危険を管理するに際し、もはや現行の ICRP のモデルに依拠しない

- ことを主張する、
5. 責任当局者およびすべての被曝を引き起こすことに責任を持つ当局者は、一般的予防手段を採用すること、および他に利用可能で十分に予防的な危険率モデルが存在しない中で、最近の観察を反映したより正確な危険率に制限を付けている暫定的な ECRR2003 年危険率モデルを、不当に遅滞することなく適用することを主張する、
 6. とくに、日本の原爆被爆者、チェルノブイリや他の影響を受けた地域の資料の再検討と被曝した集団における放射性物質に関する独自の監視を含め、多くの歴史的な疫学的研究を再検討することにより、放射性核種に結びついた健康影響の早急な研究を要求する、
 7. 人々が被曝した放射線のレベルを知り、その被曝によって潜在的な結果についても正しく情報を与えられることは、個々人に対する人権であることを考え、
 8. 医学的な研究と他の一般的応用に放射線利用が増大していることを考慮し、
 9. 患者への放射線被曝を含まない医学的技術の相当額の公的資金供給による研究を主張する

ここに述べたことは、以下の署名者の意見を反映したもので、われわれが所属するいかなる機関の地位を反映したものではない。

Professor Professor Yuri Bandazhevski (Belarus),
Professor Carmel Mothershill (Canada)
Dr Christos Matsoukas (Greece),
Professor Chris Busby (UK),
Professor Roza Goncharova (Belarus),
Professor Alexey Yablokov (Russia),
Mikhail Malko (Belarus),
Professor Shoji Sawada (Japan),
Professor Daniil Gluzman (Ukraine),
Professor Angelina Nyagu (Ukraine),
Dr Hagen Scherb (Germany),
Professor Alexey Nesterenko (Belarus),
Professor Inge Schmitz-Feuerhake (Germany),
Dr Sebastian Pflugbeil (Germany),
Professor Michel Fernex (France),
Dr Alfred Koerblein (Germany)

Molyvos, Lesvos, Greece